

保育おおさか

大阪府社会福祉協議会・保育部会(大阪府保育協議会)



春うらら

寝屋川市
認定こども園
石津保育園

保育士等キャリアアップ研修(障がい児保育研修)

「子どもの姿」「なぜ?」「手立て」に気づきを

2月19・27・29日の3日間にわたって、「保育士等キャリアアップ研修(障がい児保育研修)」を大阪府社会福祉会館で開催いたしました。

講師に、木曾陽子氏(大阪公立大学現代システム科学域教育福祉学類准教授)をお招きし、56人が修了しました。

参加者は、講義と演習で現在の障がい児保育の現状と課題を認識し、インクルージョンやユニバーサルデザイン、合理的配慮の理念について学びました。

研修期間中はグループワークが活発に行われ、事例検討ではグループワークでたくさんの方の模範事例や個別支援計画を作成しました。

また、各園は、子どもに伝えたいことを分かりやすくした配慮など、各園が工夫していることを写真で共有しました。

受講者からは「保育環境での配慮や工夫、他園の個別支援の取り組みを知り、とても参考になった」との感想が寄せられました。そのほか、



グループワークの様子

「子どもが安心して園で過ごせるように、保護者の気持ちを大切に頑張りたい。分かりたい、分かりたい、という気持ちを伝えていきたい」といった声もあり、これからの保育への思いにふれることができました。(事務局)

トルコ共和国の 教育制度や文化を学ぶ

後編

視察先
2

チルドレン センター

チルドレンセンターは、セブギユマクギンダーガーデンに隣接しています。

園長で心理士のセマ・エルダール先生は、指導力ウンセラ―や英語教師などの専門の職員とともに、英語を通じてのインターナショナル教育に力を入れています。訪問した日、子どもたち



子どもが造形活動に夢中になれるよう、さまざまな工夫が凝らされていました!!

は、ダンスや楽器遊び、ゲーム遊び、染めたお米を使う感触遊びの真最中。子どもたちが安心して過ごせるよう、豊富なおもちゃを使いやすくきれいに整頓し、どの保育室にもクッションをたくさん置くといった環境づくりに工夫を感じました。また、あらゆるところに飾られた子どもたちの作品、階段の壁などに見られるアートの先生による絵などに、センスの良さを感じました。別のクラスでは、



立派な波しぶきも上手でした!

と話しま
す。参加者
からの「子
どもたちに
どんな大人
になってほ
しいです
か？」との
質問には
「子どもた
ちが好きな
ことを伸ば
し、それが
才能となり
将来を進ん
でいけるよ
うな大人に
なってい
たいと思
います。絵
が大好き
な子ども
は絵に携
わる将来
など、子
どもたち
の特長・
才能を伸
ばして自
分のやり
たいこと
で社会に
貢献でき
るように
子ども
たちを育
てたい
です」と
答え
てくれ
ました。

関心のあるセマ・エルダール先生は、「人のために『自分が大切にしたいルール』と、守らないといけない『社会のルール』の両方を子どもたちに身につけてほしい」

講演

トルコ共和国教育省イスタンブール教育局

研修では、教育・保育施設の視察研修以外に、トルコ共和国教育省イスタンブール教育局のアティツラ・ムテュル氏（私立教育施設部ディレクター）と、ジュネイト・カマジユ氏（プ

レスクール基本教育ディレクター）から、トルコ共和国の教育制度について貴重な講演をいただきました。冒頭、ムテュル氏は、1890年エルトゥールル号海難事故への日本の救助活



トルコ共和国教育省記念講演での集合写真

動に対して感謝の言葉を述べた後、トルコ共和国の教育制度の仕組みや行政職の役割について話してくださいました。カマジユ氏からは、教育者養成の取り組みや保育施設の運営基準などの説明がありました。

質疑応答では、国や行政の補助金等の支援施策や配置基準のほか、障がい児保育の取り組みについて知ることができました。参加者からは、それぞれの教育・保育施策などの取り組みの違いを知ることが、異なる視点・気づきを得ることができ貴重な機会となりました。（編集委員 M・T）

ねごと



2月、年長クラスにとつて園生活最後の発表会がありました。家族に見てもらふことを楽しみにしている園児、あまり人前にでることが好きではない園児、と気もちはさまざまです。年長クラスのA君は、発表会では毎回、舞台上にあらなかつたり、後ろを向いて隠れたりしていました。

ある時、担任が「先生もうまくできるか心配や。A君も一緒に頑張ってくれませんか」と言うと、A君は頷いて「がんばりや」と励ましてくれました。練習では恥ずかしそうにしながらも、音楽や劇あそびのセリフが言えるようになり、発表会前日、担任が「先生、頑張るから助けてな」と声をかけるとA君は「がんばるな」と言ったそうです。

本番では恥ずかしそうにしながらも「先生のためにがんばらなあかね」と舞台上で演技ができたA君。発表会終了後、やりきった表情を見せていました。（編集委員 Y・M）

みんなが主役！
明るく楽しくなる
保育現場の秘訣！



ほめ育シニアコンサルタント
中園 暁子氏

お互い学ぶ・みんなで育つ

今月のテーマは「お互い学ぶ みんなで育つ」です。

「謙虚さとリスpekトをお互いもつ。そうすると相手の良いところが見えてくるはずですし、学びの機会も自然と増えます。地位も年齢も関係なし。お互いほめてお互い学ぶ。お互い学んでみんなで育つ」。そんな集団が増えれば、と前月号のラストに書きました。

何をもいい組織というかは、業界によって違ってもいいかもしれませんが、必要なコミュニケーションが関連に行われ、そこで働いている人がみんな生き生きとしている。顧客のために同じ方向を向いて、みんなが努力や工夫をする。こういったことが大切なのは、どこも同じではないのかもしれない。そのために、お互い学び、みんなで育つという姿勢がベースにあるべきではないかと考えます。

この「お互い学ぶ みんなで育つ」は今月のテーマとしてだけでなく、年間のベースにし、さまざまなお伝えています。皆さんのこれからの行動のヒント

トにつながれば幸いです。

◆原点に戻る

少し話がそれますが、私は今、大学生の就活支援や、職業訓練の受講者の方のキャリアカウンセリングをしています。学生さんや40代後半の方から「なぜその仕事をしようと思ったのですか？」「仕事、楽しいですか？」と聞かれたことがあります。あなたはこの質問に何と答えますか？

この質問をされると、「資格を取ろう」と決心した頃を思い出して、ハッとさせられます。前職からの思いや自分との約束が次々に浮かんでくるのです。その思いをいつの間にか忘れていたり、日々の忙しさにネガティブになっていた私の心は、この質問に答えるたびにリセットされます。

この質問は「原点」に戻す質問です。皆さんにもぜひ、この質問に答えてほしいと思います。

◆日常にあふれる「学び」

さて、おもしろいのはこの質問は、私が就職支援などで「迷ったときには原点

に返る」という言い方で受講生の皆さんにお伝えしている言葉だということです。自分が普段わかっているつもりで使っている、あらためて人に問いかけられることで、私には深い気づきと学びが生まれます。

こんなふうに、人は何気ない会話から学びを得ることができます。そう考えると、日常にあふれる学びは会話以外にもたくさんあることに気づきます。整理された机、磨かれた窓、揃えられたスリッパ。いつもの笑顔、元気な声。そしてその逆も然り。あとは「学び」とするかどうかは「自分次第」です。ここが肝です。

◆自ら育つ

もうひとつのポイントは「育つ」です。「育てる」とも「育ててもらおう」とも、人や時期によっては必要不可欠です。そのうえで、それぞれが「自ら育つ」という意志をもつことが大切だと考えます。

「宇宙兄弟」という漫画をご存知でしょうか。私は以前かなりハマってしまって、毎晩読みふけていたこと

があります。そのなかにこんなセリフがあります。

「人は大きな夢を持った時、目の前に現れた大きなドアに萎縮して、向こう側へ行くことを諦めてしまう。『開けられるわけがない』と…本当ははじめからそんな大きなドアなんてものはない。小さなドアがいつかあるだけだ。成長のドア、発見のドア、勝利のドア、賞賛のドア…(中略)」。私はこの話が好きで、さまざまなおきかえで使います。

たとえば、自分が何かに挑戦するとき、そのまま自分ができる一つひとつをしっかりとやっていく、と考えます。

これを相手にも使います。本当は相手に「10」できてほしい。でもまず「1」。今日も「1」。この「1」が無理なら、明日こちらの「1」はどう？という具合です。相手との関係にも使います。今日は楽しく話せた。真面目に話せた。本当の気持ちを聞けた。聞いてもらった。改善点を伝えてみた。反論を聞いた。小さいドアを一つずつ開けているのです。

「自ら育つ」には時間がかかるし完璧はありません。そう完璧はないんです。完璧な上司も完璧な部下もいません。自分も相手も完璧ではありません。自分と相手の成長の「1」を見つけて、今日を楽しみにしてほしいと思います。

◆「みんな」のパワー

新年度がスタートしました。「協力」の「協」の字は「二つの力を足す」と書きま。話しあって、協力して、分かちあって、協同して、一つのチームになったときのパワーは計り知れないものがあります。チームになるためのポイントは「私は」ではなく「私たちは」で考えること。

子どもたちのために一人ひとりが学び、研鑽を重ねて育つ一年となりますよう、私も微力ながら紙面を通して応援させていただきたいと思えます。今年度もよろしくお願いたします。

次回は5月号で、「個人の魅力を最大限に自分自身をアップデート」をお届けします。



茨木市

素直な心を育む

保育を実践

彩都敬愛保育園

保育園

「彩都敬愛保育園」は、0歳児から2歳児までの乳児園として、平成20年に大阪モノレール彩都西駅から徒歩5分の場所に設立されました。令和3年には北部丘陵宿久庄に分園として、3歳児から5歳児までの保育園

「彩都宿久庄敬愛保育園」を開園。自然に囲まれたこの園で

は、春は竹藪からウグイスの鳴き声が、冬には風に舞う雪など、1年を通して季節を感じられます。

広い園庭では、元氣いっぱい走り回る子どもたちの姿を毎日見ることが出来ます。

また、合同運動会やサッカーフェスティバルなどの法人内の連携活動では、姉妹園の子どもや保育者との出会いがたくさんあり、子どもたちは多くの成功体験や気づきを共有できるそうです。

保育の要にしておら

れるのは、「敬いの心」

「慈しみの心」「敬愛」

という「心の育ち」。「保

育とは、子どもの心の

なかに喜びの種をまき

育ててあげること」と

いう法人理念のもと、

自分に自信をもち「自

尊感情」「目」「肯定感」

へとつながる「心の教

育」をめざし、職員の方

々が一丸となって子

どもに向きあうことを

大切にされています。

（編集委員S・K）



▲「ありがとう」「ごめんなさい」が素直に言える子どもに

東大阪市

芝生の園庭で

伸び伸びと

木の実こども創造館

幼保連携型認定こども園

大阪には「創造館」と名がつく施設が4カ所あります。堺筋本町の大阪産業創造館、千林大宮の大阪市芸術創造館、往年のスター、アリスが、こけら落としに演奏した東大阪の文化創造館、そしてその目と鼻の先、近鉄奈

良線八戸ノ里駅の近くに位置する東大阪市の木の実こども創造館です。

園を訪れ

ると、食欲

をそそる美

味しそうな

匂いが充滿

していまし

た。イラスト

トが描かれ

た長さ10m

ほどのキッ

チンの透明

なガラス越

しには、ス



▲どうか一度訪ねて来てください！

タッフが焼き立てパンを配膳しながら、片方の手に握ったお玉でパンキンスープを注

いでいま

す。目線を

移して出会

うのは、

ウッドイナ

大ホール！

そこから見

る景色も最

高です。裸

足になって

飛び出した

くなるよう

な一面芝生

の園庭があり、耳元ではザザンオールスターズのメロディーが微かな音量で心地よく聞こえてきます。

視線を180度回転させて

ステップを上げると、人間工学に

基づいた動線が適度に仕掛け

られた6つの保育室に導かれ、

子ども心をワクワクさせる夢

のような工夫がありました。

最後に、唐住康雄理事長は、

「どうか一度訪ねてみてくだ

さいね。夢の世界ではなく現

実の当館を見てください」と

おっしゃいました。

（編集委員K・M）

さんぽ

BCP策定の
検討が急務

多くの人が帰省していた元日に発生した令和6年能登半島地震では、行政の想定をはるかに上まわる数の人々が被災し、避難を余儀なくされました。当然のことながら、指定避難所だけではこと足らず、さまざまなところで避難生活がはじまりました。保育園も例外ではなく、近隣の方を受け入れて今も頑張られている園があります。

大阪は、帰省客は少ないものの、インバウンドを含む多くの観光客であふれかえっています。一時的に来阪して被災する方の数は、相当数になるのではないでしょうが、しかも外国籍の方も少なくないはずです。

その時、私たちに何が出来るのでしょうか。保育所等のBCP（事業継続計画）は現在、努力義務ではありますが、早急に策定を検討すべきだと思います。

（平和の園N・S）